

2023年3月12日

担当者名 新堂絵梨香

先生って魅力的なお仕事 #第二部

(1)ワークショップの概要

ワークショップでは、各国の学生がそれぞれの体験を共有することが行われた。

- ①各国の教室紹介をブレイクアウトで行う
→全体で共有
- ②各国の教育実習の内容をブレイクアウトで話す
→全体で共有
- ③教室・実習で満足していないところをjam board に書き出す

GOAL:

- ①各国の先生になりたい学生同士の継続的なつながりをつくる・各国でFG2Cを形成するきっかけをつくる
- ②日本人学生の大規模な巻き込み

Sub goal: ワールドワイドに教職課程の授業を良くしていこう

・ワークショップの流れ

時間(m)	内容	備考
10-15	イントロダクション	自己紹介、アイスブレイク
20	各国で特徴的な教室紹介 BOR 教室紹介にフォーカス	スライドや画面共有でclassroomを見せ合う Ex.)日本の教室は40人1学級とか、先生が教室に来て講義を受けるとか。

30	各国の教職過程の授業紹介 BOR 実習内容にフォーカス	実習内容や実習自体が充実しているか ・実習内容紹介(期間、内容、メンター) それぞれの国の共通項、違いを見つける 各国の実習内容を掘り下げる
30	問題提起 BOR	教室・実習の満足していないところ もやもや・「こうだったら良いのに」をjam boardに書き出す
20	クロージング	まとめと次回予告 もやもや等が共有されたところでクロージング、次回「こんな教室・実習が受けたい」を深掘りしていく

(2) ワークショップを通して乗り越えた「壁」これから超えたい「壁」

国の壁を超えた

違う言語、違う制度というだけで、全く違う教育と思っていたのが、思っていることは同じことなのだと感じた。結局は国がどうであれ、「子供達により良い教育を」という想いが強いのであると思った。教育実習も子供により質の高い教育を提供するためには、充実させるべきシステムであり、メンターや大学側が感じたことだけではなく、実習に行っている本人たちの声を聞くべきである。もう一度制度やあり方を立ち止まって見直す機会になった。

乗り越えたい壁

声が届かない壁

自分たちの集客力もあるが、なかなか集客ができなかったことが1番の壁である。海外とどういう形でつながることができるか。どのような場に行き行って宣伝するのが適切なのか、作戦をより慎重に練るべきである。

(3)参加者の声

アンケートをとっていないので、ディスカッションの中の共有をします。

教室(学校)や教育実習で変えたいこと

「教室(学校)」

- ・生徒数に対して教室が狭い。もっと広々と学べる環境にしたい。特に授業研のときには、生徒だけでも狭い教室に大勢の先生方がいらっしゃるので更に狭くなってしまふ。
- ・同学年であっても他クラスに入ることができないのはどうしてか。他クラスや他学年の教室への出入りがもっと自由になることで、横と縦の関係がもっと深まるのではないか。
- ・高校になると途端に対話できるスペースや学習が自由にできるスペース(談話スペースのようなもの)がなくなる。
- ・お互いが見える教室の構造にしたい
- ・広い廊下がいい

「実習」

- ・もっと長期間行いたい。
- ・十分に自信をもって現場に出ることができる。
- ・子どもたちと長期間継続して関わることで、生徒を評価する目も養える。
 - ・教育実習先の学校に、困った時に気軽に相談できる先生(メンターさん?)が居てくださると嬉しい。
 - ・期間を自由に選択したい。試合や試験もあるのでプレッシャーがある。
 - ・子供達からフィードバックができるようにしたい